



おかげさまで70周年

赤い羽根つなぐ地域と 笑顔の輪

10月1日~12月31日

赤い羽根共同募金運動はじまる

赤い羽根共同募金は、民間の社会福祉事業を支援するため「社会福祉法」に位置づけられ、毎年10月1日から12月31日までの間、全国一斉に展開されています。

この募金は、市内の全小・中学校での児童・生徒への福祉教育などの取り組みや各地域の福祉会、障がい児・者への福祉事業に使われています。今年もみなさんのご理解とご協力をお願いします。



172号
平成29年10月1日
発行
社会福祉法人
宗像市社会福祉協議会
〒811-3437 宗像市久原180
メイトム宗像2階
TEL 0940-37-1300

たすけあいの心

日本で共同募金運動が始まり、昨年で70年を迎えました。この間、社会経済状況も急激な変化をみせ、人々の生活も意識も変わってきました。共同募金は、人々がともに生きていこうという「たすけあい」の心に支えられ、人々の幸せを願うとともに歩んできました。

平成28年度の募金実績額は、1,205万8,469円

自治会や町内会など地域住民のみなさんの協力を得て各世帯にお願いする「戸別募金」をはじめ、市役所、学校、福祉団体を対象にクオカードなどの資料を活用する職域募金、学校や病院、公共施設、事業所などでの募金箱による募金などいろいろな方法でお願いしています。

平成29年度の募金目標額

今年度の「目標額」は、昨年度実績と同額の1,205万8,469円です。平成28年度に宗像市で集められた募金は、全て福岡県共同募金会へ送金しました。その後、配分委員会の審査を経て、平成29年度は市社会福祉協議会を含む「平成29年度共同募金の使いみち(表1)」の団体に配分されました。共同募金は募金をした地域で生きる寄付金であり、目標額を達成することでこのような事業・活動を翌年度の平成30年度も安定・継続して行うことができます。

共同募金は計画募金

共同募金は、募金が集まってから使いみちを決める募金ではありません。事前に地域福祉のための使いみちの計画を立てます。この使いみちの計画に必要な額が「目標額」になります。

一世帯700円の目安額

それでは目標額を達成するためには、「一世帯ではどれだけの金額を協力したらいいのか」ということが分かりにくいというので、「一世帯700円を目安に協力していただく」と、計画されている事業が実施できます」と目安額をお知らせすることにしています。

災害等準備金の積み立て

県共同募金会では毎年、県内のための災害準備金を積み立てています。災害準備金は、災害が発生した場合に災害準備金の一部または全部を拠出し、被災地域における災害ボランティア等の支援を行っています。朝倉市や東峰村、添田町などの被災地では水害直後から災害ボランティアセンターが設置され、ボランティアの受け入れやコーディネートを行っています。毎年、みなさんから協力いただいている赤い羽根共同募金は災害ボランティア活動も支えています。

多くの人に支えられている共同募金

「共同募金実績額の推移(表2)」をみると、戸別募金(各世帯からの募金)が共同募金全体の約9割を占め、市内の多くの世帯からの募金に支えられています。

また、地域のいろいろな場面で、自治会長や組長、事業所や公共施設、学校の先生や児童、生徒のみなさんからの多くの支えで成り立っています。

また、共同募金会では、今回の大雨で被災された人々を支援することを目的に義援金を募っています。集まった義援金については、福岡県が設置する義援金配分委員会を通じて被災者に配分されます。

平成29年度共同募金の使いみち(表1)

平成28年度の実績額は、1,205万8,469円でした。この募金は平成29年度、下記のような活動に活用されています。赤い羽根共同募金は、みなさまのあたたかな気持ちを、具体的な活動につなげていく、「じぶんの町を良くするしくみ」です。これからもご理解とご協力をお願いいたします。

項目	金額
高齢者の福祉に ●在宅介護者の会の支援 ●配食サービスボランティアの支援 ●シニアクラブ連合会への助成金 ●民生委員児童委員協議会への助成金	1,201,000円
障がい児・者の福祉に ●身体障害者福祉協会の支援 ●あじさいの会への助成金 ●手話講習会への助成金 ●あゆみの会への助成金 ●声の広報配布事業の支援 ●要約筆記ボランティアの支援 ●おもちゃ図書館運営の支援 ●宗像コスモス会への助成金	2,329,000円
ボランティア活動に ●福祉ボランティア活動連絡協議会活動の支援 ●大島地区ボランティア団体への助成金	534,000円
福祉会活動の支援に ●地域住民の自主的な地域福祉活動	2,703,000円
児童・青少年の福祉に ●福祉教育読本「ともに生きる」の活用 ●福祉教育推進校(園)事業	905,168円
子育て支援活動に ●地域福祉文庫連絡協議会の支援 ●NPO法人むなかた子育てネットワークこねっとへの助成金 ●母子寡婦福祉会の支援	525,000円
県内の福祉施設や災害準備金に ●県内全域を対象とした社会福祉施設や福祉団体に ●災害準備金に	2,582,528円
情報提供・啓発活動に ●社協だよりの発行	469,000円
共同募金の事務費に ●チラシの作成、資料の購入など	740,220円
平成30年度事業の配分に ●共同募金期間外の1月1日~3月31日に受け入れた募金	69,553円

共同募金実績額の推移(表2)



赤い羽根共同募金配分団体紹介 住み慣れた吉武で安心して暮らしていけるように...

吉武地区福祉会
会長 矢野邦彦さん



吉武地区は昔ながらの近所づきあいが残る地域で、多くの自治会が(8自治会中6自治会)高齢化率40%を超えています。その中でボランティアや自治会長、民生委員児童委員の人たちと連携しながら、少子高齢化する地域を見守り、安心して暮らせる地域づくりを取り組んでいこうと「吉武地区福祉会」は、様々な福祉活動を行っています。吉武地区福祉会は、昭和63年10月に発足し、平成15年から地区内を順番に訪問して開催する出張型サロン(すみれサロン)を開始しています。楽しく話したり、運動したりする事で地域住民のつながりがよりよくなりや介護予防を目的としています。また、高齢者を対象としたバスハイイクや小学生との世代間交流なども実施しています。今年度は福祉会ができて29年を迎えます。今後も少子高齢化が進む中、安心して住み慣れた地域で暮らしていくことができるように、共同募金の助成金をいかしながら、今後とも地域での福祉活動を続けていきます。みなさまのご協力とご理解をお願いします。



ボランティアセンター通信

土・日曜日、祝日を除く午前8時30分～午後5時
〒(0)4100 (0)4101
ホームページアドレス <http://kouyukan.com/v-net/>
メールアドレス v-net@syakyo.munakata.com

こんなことを学びました 「ジュニアボランティア スクール」より

小学1年生から中学2年生が受講し、こども福祉員「バンビ」「ピッコラ」合計19人が誕生しました。みんなにとって安全、安心して過ごすことができる街になるために、何が求められ、自分に何ができるのかを考えてみました。

*「バンビ」コースは、環境保全 全について学びました。

北九州市環境ミュージアムを訪ね、海や大気の汚染状況を学びました。リサイクル方法は、日ごろの生活で取り組みやすい活動です。環境保全の話に、参加者は熱心に耳を傾けました。「たべのこしをせよ、ごみをへらしてかんきょうをよくしたい」という目標も立ちました。

しぜつでたいけんして、 先生の話で心にのこっていること

- たべものをのこさない。
- ごみすくがたのしかつたよ。
- ゴミをすくへらさないといけなと思った。
- (牛乳パックの)竹とんぼは、いえでもつくれるからつくってみてね。
- 牛にゆうぼつくとちらしただけでかみとんぼがつくれたのですごかったです。
- リサイクルでつくったとんぼが心にのこりました。
- 死の海のこと。



※バンビ「bambi」
【bambino (子)を省略したと
思われる】、ピッコラ「piccola」【小
い】ともにイタリア語が由来です。



*ピッコラコースは、高齢者福祉や環境学習を通じ、「これからの目標」を立てました

8月16日

★開講式、レクリエーション、認知症に関する学習

8月17日

★まもるーむ福岡、福岡市介護実習普及センターにて学習

8月18日

★にじいろカフェ(高齢の人やボランティアさんとふれあい交流会)、修了式

ジュニアボランティアスクールでこんなことをまなびました

1班 みんなと協力して、自分ができるボランティアに進んで参加する!

これからの目標

2班 困っている人がいたら、助けてあげて、自分にできることは、進んでやる!!

高れいの人や認知症の人に対して、どのように接しますか

- やさしくする。せかせない。おどろかせない。わからない。心をきずつけない。
- 理解する。助ける。
- できなくても、できないあつかいしない。認知症の人や高れいの人をの気持ちを考える。
- やさしく、分からないなら言い方をかえる。はっきりと大きな声ではなす。
- 変なことをいわれても、優しい言葉で返してあげる。
- 大きい声で急がず、やさしい言葉で接したいと思う。しっかり話を聞く。
- やさしい言葉をかける。

地域でこまっていることや年をとってこまっていること

- やりたいことがあってもできなくなるが多くなる。
- 耳がきこえにくい。目がみえにくい。あしこしが悪くなる。
- 骨がもろくなつてこつせつしやすくなる。
- ものわすれがたまにある。かたこりやすつ。
- 動作がにぶくなり、できることがへる。
- 年をとると運動しないときん肉があとさえる。
- あきらめないといけなことが多い。
- あく力が低下して、バスタオルでも重くかんじらう。
- 病気にかかりやすくなった。小さい文字が読みにくくなった。
- 公民館が古いままだったらこわれそう。

学んだ中で、友だちや地域の人に教えたいこと、伝えたいこと

- 高れいの人や認知症の人にもちゃんとその人なりの考えや気持ちや心が絶対あることを考えるし、忘れなない。
- 85歳以上になると、4人に1人が認知症になる恐れがある。
- オレンジリングは、認知症の人をたすける認知症サポーターのあかしです!
- 認知症とこつれいしやのこと。
- 認知症は、悪化するとおぼえていたことを忘れたり、すぐにおこつたりする。
- 高れい者のためにいろいろ便利な道具がたくさんある。
- しょう書があつても工夫をすればふだんの生活も楽にできる。
- 認知症になつた方も一生懸命にやっているので責めたりしない。

高齢や認知症になつても、安心してすごすことができるまちなるために自分にできることは?

- 高齢者や認知症の人にきずつくことを言わない。できなくても笑わない。自分がもしそうなつたらどうなるのか考える。
- こまっている人を見つけたら、すすんで助ける。
- 親切にする。 ●平和を守ること。
- きつく言わない。しんせつに! 高齢者の人たちに目をむけてささえていきましょ!
- 高齢者には、分かりやすく何回でも分るまで話す。
- ボランティア活動とオレンジリングをつけること。
- 困っている人がいたら助けてあげること、いつでもやさしく接してあげる。自然をこわさないこと。
- ものわすれをしたときに持つていつてあげる。

ボランティアでみんなの「笑顔」を増やしたい

参加者募集中

平成29年11月28日(火)

ボランティア入門講座

今年7月、九州北部豪雨災害で福岡・大分の一部の地域で大きな被害をうけ、今も復興支援に向けての取り組みが進められています。被災後は災害ボランティアについての報道が連日メディアで取り上げられ、注目を集めていました。今回の講座では、ボランティアで現地におもむく際に必要な「被災地や避難所で生活している方たちに対する配慮」「ボランティアの心構え」「自分たちの心の安全管理」について学習します。後半の体験学習では「バルーンアート制作」を実施。子どもたちの人気者になれるバルーンアートに挑戦できます。

子ども支援ネットワーク With Wind
講師 藤原 浩美さん
プログラム1 講座 9:25~
「避難所の子どもの心身サポート」

プログラム2 体験学習 10:50~
「バルーンアートに挑戦!」
講師 ピエロのPさん 今西 啓之さん

募集中のボランティア活動の紹介もあり、ボランティアセンターへの登録もできます

日時:29年11月28日(火)
9:15~12:15(9:00受付)
会場:メイトム宗像 ゆい工房
参加費:300円(保険・資料代)
定員:20人(先着)

申し込み・問い合わせ
宗像市社会福祉協議会 宗像市ボランティアセンター
TEL:0940-37-4100 FAX:0940-37-4101
v-net@syakyo.munakata.com
11月15日(水)までに講座名・名前・年代・連絡先をお知らせください

地域のサロン活動最前線 陵巖寺いきいきふれあいサロン「ふれあい会食会」

つながれ
ひろがれ
地域福祉!
シリーズ⑩

今回は、陵巖寺の「いきいきふれあいサロン」の紹介をします。食材や手作り総菜の持ち寄りなど、地域の支え合いで今日まで続いている「ふれあい会食会」です。

スタッフや参加仲間の見守りかねて、年に9回開催し、健康・脳トレ体操、看護師の健康講話、その月が誕生月の人たちのお祝いをして

ています。
陵巖寺区福祉会が平成5年に立ち上がり24年が経ちました。しかし、ふれあい会食会の歴史はさらに古いとのこと。会食会を支えている料理ボランティア「双葉会（会員26人）」代表の前田スエ子さんに尋ねました。

双葉会代表の前田スエ子さん

「陵巖寺ふれあい会食会をはじめたきっかけは何ですか？」

昭和59年に開催された「とびうめ国体」がきっかけです。選手たちの朝夕の食事を公民館で提供させていただいた時の、大きな仕事を終えた満足感、その時に生まれたみんなの結束力が大きな力となりました

「地域への思いはどんなものだったのですか？」

地域を見てみると、仕事・子育てが終わり、夫婦暮らしになり、年をとるごとに食事の内容も好きみなものだけで、徐々に少食になります。栄養バランスが崩れ、体力が落ち、結果的に病院通い。こんな話を聞くにつれ、「明日は我が身！」家にこもりがちな高齢者を外へ連れ出す、一緒に食事することで顔が見える、会話が笑顔を生



男性の協力員が配膳します



陵巖寺福祉会会長の荒川義美さんが笑顔で受付

感謝にたえません。



誕生月の人を祝います。ハッピー・バースデー・トゥーユー〜♪



食後は健康体操！

み出す、地域の絆がでるなど、身近なことから取り組むことにしました。

「これまでの苦労、やって良かったというエピソードは？」

福祉会の結成後は、会食会を福祉会活動として組み込み、同時に区の事業になりました。金銭面参加者を増やすこと、スタッフの心構えなど多くの課題が生じましたが、その都度、何度も話し合いを重ね、勉強会や研修会も実施しました。少しずつ課題を解消し今があります。

地域とのふれあい活動の今、そしてこれから

年9回の会食会のほか、5月はバスハイク、8月の陵巖寺まつり、9月の敬老会と「毎月1回の顔を合わせる機会」があり、おしゃべりを通してお互いに、近況や健康状態を知ることができま

ふれあい会食会の立ち上げから26年、当初から双葉会の顔ぶれは大きく変わっていません。会の平均年齢は74歳を超えています。平成3年、婦人



とびうめ国体の時のエプロン



厨房では双葉会のみなさんが調理

在宅介護者1泊リフレッシュセミナー

参加者募集

市内在住で、在宅介護をしている人を対象に「在宅介護者1泊リフレッシュセミナー」を開催します。このセミナーは、在宅介護をしている人の「こころ」と「からだ」のリフレッシュを目的として実施します。今回の行先は、大分県別府です。あなたも介護の手を休めて、同じ介護者との楽しいひと時を一緒に過ごしてみませんか。

- 主催 市、市社会福祉協議会
- 日程 11月21日(火) 11月22日(水)
- 対象 市内在住で、在宅介護をしている人
- 行先 大分県別府(予定)
- 参加費 1人5000円
- 募集人員 30人 (応募多数の場合、抽選)
- 申込方法 11月6日(月)までに、市社会福祉協議会に「名前」「年齢」「住所」「電話番号」「介護をしている人」を電話やFAX、Eメールで申し込み
- 申込方法 市社会福祉協議会



県民介護講座

認知症について考えるつどい (認知症サポーター養成講座)のお知らせ

- 日時 10月17日(火) 13:30~16:10まで
- 場所 クローバープラザ1階クローバーホール (春日市原町3-1-7)
- 内容
 - 講演①「いつてらっしゃい」「お帰るなさい」といえる地域へ 講師 小規模多機能おさ「弥永亭」ほっとかれん隊 発起人管理者 河内 正三さん
 - 講演②事例発表 「認知症の方とその家族が安心して暮らせるまちづくり」～オレンジリングのまちをめざして～ 福岡市南区弥永校区
- 参加費 無料
- 申込・問い合わせ先 福岡県社会福祉協議会(介護実習課) ☎092(584)3351



寄付

ありがとうございます

- 〔香典返し〕敬称略
 - ・(故)古寺雅弥 (村山田)
 - ・(故)木村敏幸 (吉留)
 - ・(故)古賀勝 (城西ヶ丘)
 - ・(故)岩佐美佐子 (稲元)
 - ・(故)山路キクノ (上八)
 - ・(故)田畑和子 (用山)
 - ・森イソノ (田島)
 - ・(故)大神正和(ひかりヶ丘)
 - ・(故)秦智恵子 (村山田)
 - ・(故)河野泉 (神湊)
 - ・(故)岩田晴江 (日の里)
 - ・(故)末信タカ子 (大島)
 - ・(故)大柄根歩 (葉山)
 - ・(故)阿多美恵子(日の里)
 - ・(故)宮本一郎 (大島)
 - ・(故)三原千春 (日の里)
 - ・(故)釜瀬貞之 (河東)
 - ・(故)石松直記 (土六)
 - ・匿名
 - 〔一般寄付〕(敬称略)
 - ・松下桂子 (神湊)

市社会福祉協議会では、随時寄付を受け付けています。地域福祉の推進のために、ご協力をよろしく願います。

社協だよりは、偶数月の1日号です (年間6回)

社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

宗像市久原180番地メイトム宗像内 ☎(37) 13000
大島支所 宗像市大島1809番地32ふれあいセンター内 ☎(72) 22994
ホームページ: <http://syakyo.munakata.com/> メール: info@syakyo.munakata.com

本会は、むななたタウンプレスを音にして届ける「声の広報」活動を実施しています。